



樹里安だより

ジュリアン

2006年3月
Vol.19



— 安行の名所 (その六) —

新郷貝塚 《川口市大字東貝塚》

しんごうかいづか

市内大字東貝塚(若宮)にある主淡貝塚(淡水産の貝を主体とする貝塚)で、庄和町神明貝塚、松伏町栄光院貝塚等と共に、埼玉県を代表する縄文時代後期の貝塚である。この貝塚は3つの地点からなり、南北150メートル、東西最大幅120メートルの規模を有している。明治時代に最初の発掘が行われ、以後昭和年代に入ってから3回行われ、3件の住居跡と多数の遺物が出土している。

傑伝寺の

イチヨウ

(川口市東本郷1506)

「イチヨウの最高の瞬間が見たい」と思い今回は東本郷の傑伝寺を訪ねてみた。このお寺は東本郷の小高い丘の上にある。参道は急な坂になっていてかなり登る。登り切ると個性的な本堂が見えてくる。高架線になっている首都高速川口線がすぐ脇に見える。境内に大きなイチヨウが屹立し、抜群の存在感を醸し出していた。11月の中旬にこのお寺を訪れたが、まだイチヨウは黄葉していなかった。

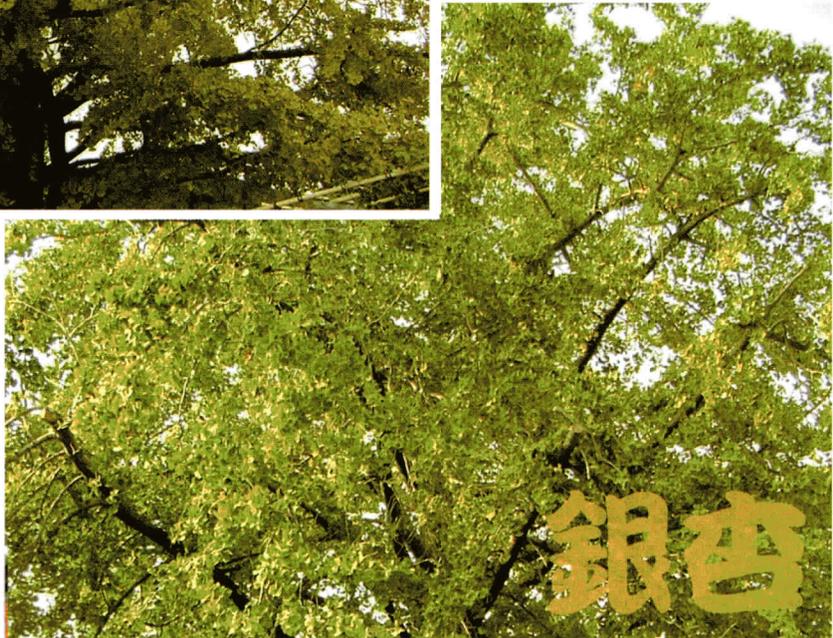
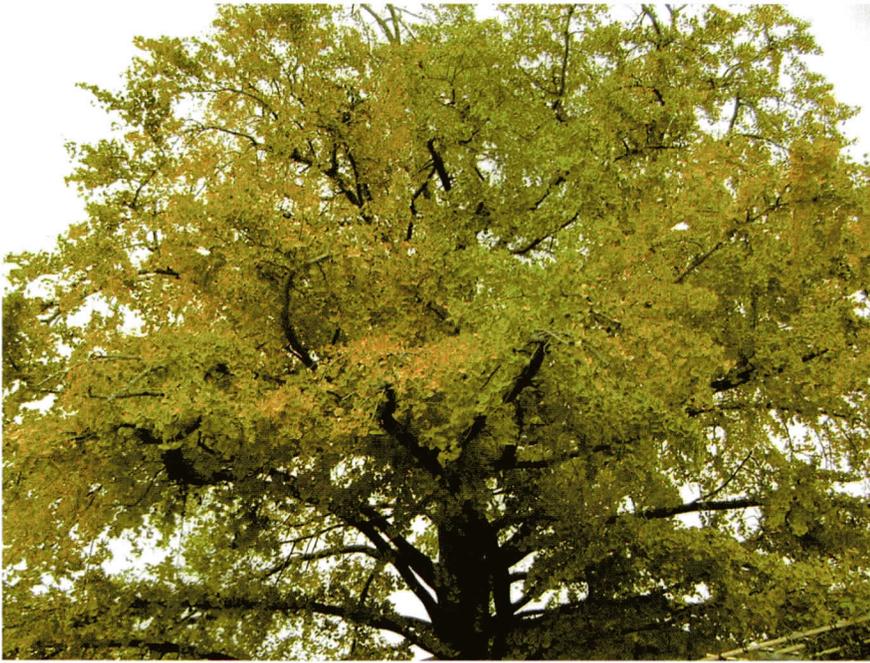
イチヨウは、ジュラ紀から白亜紀にかけて最も繁栄した。しかし、その後の氷河期を迎え、比較的暖かかった中国南部を残して、ほぼ絶滅したと考えられている。このことから中国が原産地といわれている。古代からほとんど変わらない姿を残していることから「生きた化石」と呼ばれている。日本へは、中国から僧侶によって伝えられた。樹齢が長く、大木になり、古くから神社仏閣で植えられ、防火樹の役割を果たしていた。全国で天然記念物に指定されている木も多い。この木は材は柔らかく、細工しやすいことから将棋盤、将棋の駒、彫刻材として利用される。また、中華料理のマナ板としても欠かせぬ存在である。名前の由来は中国名の一つ「鴨脚」の宋時代の音読みヤーチャオ が転訛してイチヨウになったそうだ。

12月になり再度、傑伝寺を訪ねてみた。しかし、かすかに黄色くなっていただけ。いかにもイチヨウという姿が見られなくて残念だ。この木が古代から姿が変わってないとは感慨深い。先人達もこの木の黄葉を、「最高の瞬間」を何度となく見続けてきたのであろうか。そんなことを考えながらお寺を去った。



イチョウ *Ginkgo biloba* L. (イチョウ科イチョウ属)

- 分布 中国原産。
- 高さ 45m。幹周り5mぐらいになる落葉広葉高木
- 用途 公園樹、街路樹、盆栽、碁盤、将棋盤、神社・仏閣境内に植栽
- 陽樹
- 4月に開花。雌雄異株。生長は速い。萌芽力は大。刈り込みに耐える。移植は容易。煙害に強い。防火力がある。
- 樹皮は灰色で厚く、縦に割れ目ができる。
葉は扇形で中央に切れ込みがある。秋には美しく黄葉する。種子は球形で9月頃成熟。



傑伝寺の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
イチョウ	イチョウ科	H12.9.1	69	東本郷1506	1.9m	15.0m
アカシデ	カバノキ科	H16.2.17	216	東本郷1506	2.0m	14.0m

ヤマボウシ “ウルフアイ”

ヤマボウシはもともと日本の山野に自生していたハナミズキの一種ですが今回ご紹介する“ウルフアイ”はアメリカで作出された品種です。

花は白く独特な美しさを醸し出します。また葉は波打ち、美しい白覆輪が入ります。秋には紅葉も楽しめます。お庭のポイントとしてもシンボルツリーとしても利用できます。また、寒さや日陰に強く、建物の北側などでも最適です。



ヤマボウシ “ウルフアイ” ミズキ科ミズキ属

- 学名：Cornus kousa “Wolf Eyes”
- 原産地：日本（ウルフアイはアメリカで作出）
- 樹高：5～8m
- 花期：5～7月
- 果樹期：10月
- 落葉広葉高木
- 特徴：
 - ◆花は白く美しい
 - ◆波打つ葉に美しい白覆輪が入ります。
 - ◆寒さに強く、日陰にも強い
 - ◆自然に樹形が整うので剪定の必要はありません。
 - ◆秋に赤く熟した実はジャムにすると美味。



退職記念

ハナミズキ

ミズキ科ミズキ属 (落葉広葉樹・高木・陽樹)



明治末期、日露戦争の停戦を斡旋したアメリカ国民に感謝し、時の東京市長尾崎行雄はワシントン市へサクラを寄贈した。その返礼に贈られたのが、アメリカを象徴する花、ハナミズキ。ハナミズキとサクラは、日米友好のシンボルとなった。長年の労をねぎらい、感謝の気持ちを込めて、退職記念にはハナミズキを植えたい。

1. **特徴**：開花期4～5月、結実期9～11月。生長はやや遅い。

2. **植えるときの注意**：

時期 11～12月・2～3月

場所 水分を多く要求するが、極端な乾燥地でなければよく育つ。

植え付けのときには堆肥を十分に与える。

3. **管理のポイント**：

アメリカシロヒトリがよく発生する。発生したら極力早めに駆除する。

《他の木》



サザンカ

常緑広葉樹
小高木・中庸樹



サツキ

常緑広葉樹
低木・陽樹～中庸樹



ライラック

落葉広葉樹
低木・陽樹



ユズリハ

常緑広葉樹
高木・中庸樹・雌雄異株

参考：(財)日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ

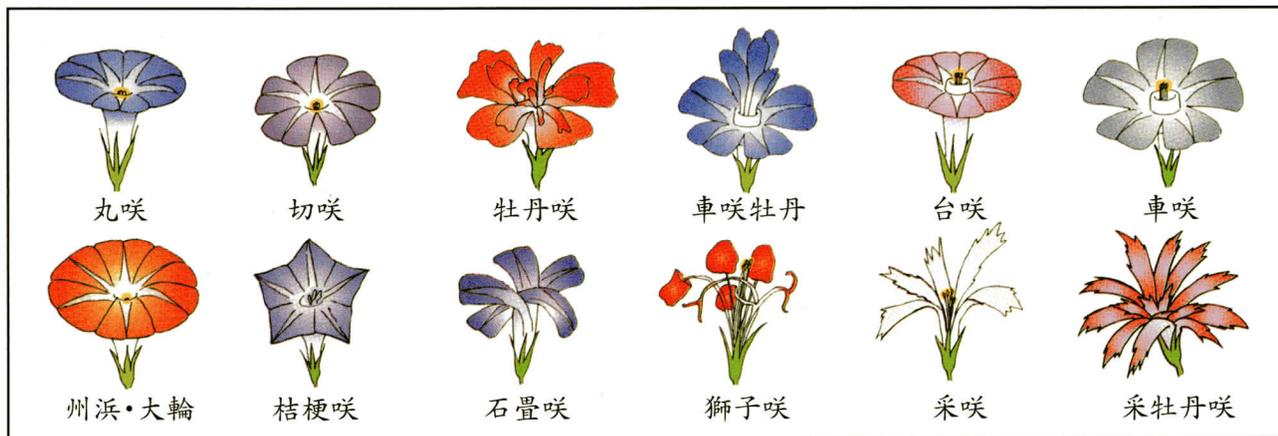


アサガオの歴史

夏の朝にすがすがしく咲くアサガオ。夏休みの宿題で栽培した人も多いのではないのでしょうか。身近な存在ですが、アサガオは日本が世界に誇る園芸植物です。アサガオは今から1,200年前の奈良時代に中国から伝わってきたといわれています。当初は観賞用よりも薬草として利用されていたと考えられています。花の色も青色だけだったようです。その後1,000年はアサガオはスポットライトを浴びることのない存在でしたが、江戸時代の園芸ブームに乗りその地位を高めていきます。江戸時代は庭園での園芸から鉢植えに主流が移り変わり、桜草・菊など共に人気が高まりました。丸咲きの原種に近いアサガオの中から葉や花の形の変化に富んだ変化アサガオが育成されていき、文化・文政期(1810年代～30年代)、嘉永・安政期(1840年代後半～50年代)に大ブームがあり、武士から庶民まで広く親しまれるようになりました。寺院の境内や作り手の自宅を舞台に変化アサガオの競い合いが行われたり、芝居の舞台衣装や浮世絵にも描かれました。園芸書物も19世紀になるとアサガオのみをとりあげた“朝顔図譜”が刊行されました。



その後、明治維新などの混乱で変化アサガオブームも一段落しますが、世の中が落ち着きを取り戻すと明治20年代～昭和初期にかけて東京、大阪、京都など各地で変化アサガオの同好会が設立され、品評会などでその技術が競われました。また、この時期は変化アサガオの他に大きさを競う大輪アサガオ(東京・大阪行灯作り、名古屋の盆養切り込み作り、京都の数寄屋作りが有名)や厳しい作法にのっとり規格通りにつくられる肥後アサガオの栽培も盛んになっています。現代は、毎夏、全国各地でアサガオ市が開催され、夏の風物詩となっています。



入谷のアサガオ市

入谷でアサガオが有名になったのは、明治15年頃からといわれています。入谷一帯の植木屋が変化咲きや大輪咲きのアサガオを陳列したら、大変な人気となり多くの見物客を集めたそうです。入谷でアサガオが盛んになった理由として上野の土質がアサガオ栽培に適していて、江戸郊外であることから庶民が早朝にアサガオを見やすかったことなどが考えられます。

しかし、都市化が地価高騰を招き、廃業する植木屋が増え、大正時代に東京名物と呼ばれた入谷のアサガオも姿を消しました。

その後、戦後間もない昭和23年に地元有志による観光連盟がアサガオ市を復活させました。現在は毎年7月6日～8日の3日間入谷鬼子母神の境内を中心とした場所で開催され、多くの方がアサガオを買い求めに来ています。

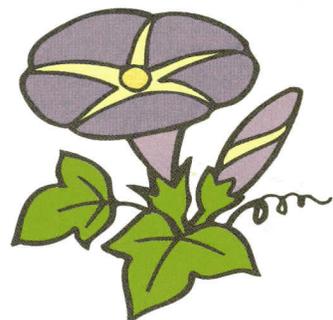
ヨーロッパにおけるアサガオ

ヨーロッパでアサガオは、“ジャパニーズモーニンググローリー”として紹介されました。しかし、日本でのように園芸植物として成功しませんでした。アサガオは短日植物で日照時間が短くならないと開花しません。日本よりもはるかに昼の長いヨーロッパでは開花しないからでした。そこで、改良されて日が長くても咲くようになったのが“アーリーコール”という品種で欧米でも喜ばれています。



アサガオ *Pharbitis nil*

- ヒルガオ科アサガオ属
- つる性の一年草
- 花期：7月～10月
- 原産地：熱帯アジア ヒマラヤ高原地帯
- 日当たりが良く、風通しの良いところを好む





盆栽：木や草を小さな鉢に植えて、樹形を整え、自然にある風景の一端を感じられるように育てたものと呼んでいます。

松柏盆栽：マツ科やヒノキ科などの常緑針葉樹の盆栽のことをいいます。緑の葉を一年中つけているので常磐木(ときわぎ)とも呼ばれています。

雑木盆栽：松柏盆栽以外のすべての盆栽をいいます。一般には落葉広葉樹を用います。四季の移り変わりを敏感に感じさせてくれます。また、観賞部位により、花もの盆栽・実もの盆栽・葉もの盆栽に区別されます。

グラウンドカバープランツ：

地表面や建築物の壁面などを覆って生育する植物をいいます。地被植物ともいい、地表面を保護し土壌の乾燥を防ぎます。多年草や低木が多く用いられます。壁面には主につる植物を利用します。

山野草：一般には山野に自生する草本で多年生植物を山野草と呼んでいます。但し、その定義は明確には難しく、木本の植物でも山野草として扱われているものもあります。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成18年3月1日
 発行：財団法人 川口緑化センター
 〒334-0058 川口市安行領家844-2
 TEL 048-296-4021

ホームページ：<http://www.sainet.or.jp/~jurian/>